

令和6年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会

令和6年7月10日(水)
伊勢原市役所 2C会議室
午前9時00分 開会

- 事務局 ・ 令和6年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を開会する。
初めに委員長から御挨拶をいただく。
- 委員長 ・ 挨拶
- 事務局 ・ ただいま、10名の御出席をいただいている。伊勢原市教科用図書採択検討委員会設置要綱第6条2項に基づき、過半数の御出席をいただいているので、会議は成立する。
 - ・ 資料の確認をする。本日配付した資料は、本日の次第、ホチキス留めで令和7年度伊勢原市立小・中学校使用教科用図書採択方針、令和7年度使用小・中学校教科用図書発行者・発行数一覧、伊勢原市立小・中学校使用教科用図書一覧である。
 - ・ 事前にお届けした資料は、中学校用教科用図書調査研究の結果(令和7・8・9・10年度用)平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版、教科用図書調査研究の結果(令和7・8・9・10年度使用)神奈川県教育委員会版、小学校用教科用図書調査研究の結果(令和6・7・8・9年度用)平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版である。
 - ・ 教科書、編修趣意書、学習指導要領を机の上に置いてある。教科書は種目ごとに事務局担当が入れ替えるので、必要に応じて御覧いただきたい。
 - ・ 第1回検討委員会では、伊勢原市教科用図書採択検討委員会設置要綱について、教科書の定義等について、伊勢原地区教科用図書採択の流れについて、また、神奈川県令和7年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針等について説明した。
 - ・ 本日の配付資料にある令和7年度伊勢原市立小・中学校使用教科用図書採択方針について確認する。(読み上げ)
 - ・ 学習指導要領には、各教科の目標や内容等が書かれている。
 - ・ 以上の点を踏まえて、本日の検討・協議を進めていただきたい。
 - ・ この検討委員会は、静ひつな環境の下で採択事務を行うために非公開となっている。ただし、公式な会議のため、記録を取り、会議録をホームページで公表することを御承知おきいただきたい。また、情報公開の請求があった場合は、これに応じることも前回と同様であるので、併せて御承知おきいただきたい。
 - ・ 教育委員会は、採択に当たり、本日の検討委員会での検討・協議の内容を参考にする。したがって、採択に向けての参考とするため、教育委員が委員長の許可を得て出席している。御承知おきいただきたい。
 - ・ 進行は、第6条第1項に基づき、委員長に議長をお願いする。

- 委員長 ・委員の皆様には、本検討委員会の趣旨を御理解いただき、適正かつ公正な採択のための検討が行われるよう、御協力をお願いします。
- ・本日の進行について、事務局よりお願いします。
- 事務局 ・初めに、令和7年度に使用する小学校の教科書について、事務局から説明をする。
- ・次に、令和7年度から中学校で使用する全ての教科書について検討をお願いします。まず、調査員が、伊勢原市、平塚市、秦野市、大磯町、二宮町の共同調査研究の結果に基づいて、報告する。その後、報告についての質疑の時間を取り、終了した時点で調査員は退室する。調査員退室後、検討委員の皆様は検討に入ってください。必要が生じた場合には、調査員に再度入っていただき、質問することも可能である。
 - ・なお、学び舎については、教科書見本が送付されていないため、県の調査結果のみとなる。御承知おきいただきたい。
 - ・この検討委員会は、各検討委員から十分に意見を出していただき検討する場であり、教科用図書を1種類に絞る性格のものではない。ただ、結果的に、ある発行者もしくは幾つかの発行者への意見が多くなることは考えられる。全ての教科書ということで時間的な限りもあるので、検討委員会として方向性が幾分見えたところで検討を終了とする。
- 委員長 ・それでは、次第に沿って進めていく。まず、小学校の教科書について、事務局より説明をお願いします。
- 事務局 ・義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律施行令第15条第1項の規定により、基本的に同一の教科書を4年間採択しなければならないとされている。
- ・事前に配付している小学校用教科用図書調査研究の結果であるが、前回採択替えがあった令和5年度の調査研究の結果である。既にお目通しいただいていると思われるので、繰り返し読み上げることはしない。
 - ・小学校用教科書の採択については、令和5年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこととなっているので、第1回教科用図書採択検討委員会の資料で示した伊勢原市立小学校使用教科用図書一覧のとおり採択を行うこととなる。
 - ・令和5年度に採択をした小学校教科書について、1種目ずつ確認させていただきます。(読み上げ)
 - ・小学校教科用図書に関しては以上である。
- 委員長 ・ただいまの事務局の説明に対して、何か御質問や御意見はあるか。ないようなので、小学校の教科書については、これで終わる。

(調査員入室)

- 委員長 ・続いて、中学校の教科書の検討に入る。採択については、教育委員会が令和7年度伊勢原市立小・中学校使用教科用図書採択方針に基づき採択

をする。そのために必要な事項を調査・検討することが本検討委員会となるので、御承知いただきたい。伊勢原市の子どもたちにとってふさわしい教科書、使いやすい教科書を検討していただきたい。よろしく願います。

・それではまず、調査員から報告をしていただく。国語については、4者から発行をされている。調査員は、報告をお願いします。

- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・ただいまの調査員の報告について、御質問を承る。いかがか。
- 委員 ・国語の教科書の文章を読むことで、子どもがいろいろなことを感じたり、教科の学習以上の理解があったりすると思う。例えば教育出版の1年生では、子どもの権利というのがあり、子どもは国際的な権利条約に基づいて保護されており、自分の身を守るということを知ることが、子どもにとってすごく生きる上で重要だと思う。学習を超越して子どもが知っておくべきことだと思う。ただ、国語の授業としてこういうのを扱うときに、そこまで子どもが感じるかどうかというのは評価しづらい部分だと思う。子どもが自分の権利を主張するような教材があるということ授業の中でどんなふうに扱われるかということが知りたくて質問する。
- 調査員 ・私の経験上の話になってしまうが、子どもの権利を扱うのも含め、近年言われている諸課題についての題材というのが1年生から3年生まで設定されている。特に子どもの権利に関しては、評価するというところ以上に、読み深めて人間性を豊かにしたりということに意識を置いて、振り返り学習において、何を感じ取り、何を身につけたかということを見とってきた。以上である。
- 委員 ・現在、伊勢原市は、国語の教科書と書写の教科書の発行者が違うが、違うことでのよい面、不都合な面を教えてください。
- 調査員 ・個人的な意見になってしまうが、不都合を感じたことは今まではない。それぞれのよさがあり、例えば書写の教科書のほうが、図や写真、解説などがよりいろいろな子に分かりやすく説明している仕様になっている。国語の教科書も同じように図や表もあるが、そこだけではない観点でいうと、違うからといって使いづらいということは一切感じていない。
- 委員 ・全国学力・学習状況調査等でも、書くことの力の育成というのが課題になっている。書くことの学習を行う場合、教科書はどのように使われているのか、また、書くことを指導する上で工夫はどのようなものがあるのか教えてください。
- 調査員 各教科書ともに、各学年の中で、書くという領域の教材はある。ただ、そこだけでなく、私のやってきたことで話すと、いわゆる振り返りであったりとか、テーマを設定したりとか、条件をつけた作文を書いたりとかということ授業内でやっており、書く力の向上に努めている。書くという力は書くことだけでは身につかないと考えており、語彙を増やすこととか、読む力とか、ほかの領域と関連づけて指導に当たっている。

○委員長 ・ほかに御質問はあるか。よろしいか。それでは、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

○委員長 ・それでは、感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。

○委員 ・各者、小学校との円滑な接続に向けて、巻頭のほうに、親しみやすい読み物教材が配置されていると感じた。東京書籍は、巻末に「学習の前に」というコーナーがあり、国語学習を進める上での基本事項が掲載されている。また、光村図書は、「言葉に出会うために」というページがあり、ここで小学校での既習事項の確認が掲載されていた。引き続き中学校でも使える内容に触れられているというふう感じた。

○委員 ・各者ともに、巻頭でつきたい力を一覧で示し、教科書の使い方を説明するなど、生徒が見通しを持って学習に臨めるように配慮されていると感じた。その中でも光村図書は、つきたい力のほかに、SDGsや他の教科との関連も分かるようになっている。また、教育出版でも同じようにSDGsの関連や、各教科で取り組む言語活動例も示されている。

○委員 ・語感を磨いて語彙を豊かにするということが、国語において大切なことの一つと思う。東京書籍の中で「広がる言葉」というところがあるが、作品の中の表現がまとめられていると思う。また、教育出版では、「理解に役立つ言葉」という中で、本や文章の中で出会う言葉がまとめられていると思う。三省堂については、各教材の「語彙を豊かに」で教材に関連した語彙が掲載されている。最後に、光村図書では、端末の「語彙ブック」で自分の思考や感情を表現する助けになるような言葉が紹介されていた。

○委員 ・私は古典のところを気にして見たのだが、古典についても各者で工夫がなされていたと思う。その中で、東京書籍や、教育出版には、最初に「桃太郎」とか「浦島太郎」といった、子どもたちにとって非常に身近なお話から入って、その中で古典を学ぶ意味というものを考えさせるような教材の配慮、配置がされており、そこから長編の古典につなげていくという工夫が見られた。

○委員 ・各者とも思考力、判断力、表現力等を育むための工夫が見られた。光村図書は、「思考の地図」でブレインストーミングや分類方法等、思考を広げたり整理したりする方法が示されている。また、東京書籍の各学年末にある「未来への扉」は、それまでの学習で身につけた言葉の力を生かして、考えを深めることができるものとなっていた。教育出版は、複数の文章を比較しながら読む活動を設定し、論理的な思考力を高め、読みを深められるように工夫されていた。

○委員 ・先ほど調査員の説明にもあったが、生徒が主体的に学ぶ、学習に取り組むような工夫が4者ともあったように思う。東京書籍では「手引き」、三省堂では「学びの道しるべ」に学習の流れが示されており、見通しを持って授業に取り組むことができるようになっていた。教育出版は「学びナビ」が設けられ、情報を集めたり、説明したりして、自分の考えを深められるように

なっていた。また、光村図書では、「学びへの扉」で、学習の流れを見通すとともに、「学びのカギ」で学習のポイントを確認することができるようになっており、よかった。

- 委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。活発な御意見に感謝する。検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴やよさがあったことを報告させていただく。これで国語の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・書写は4者から発行されている。調査員は、報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・ただいまの報告について、御質問を受ける。いかがか。
- 委員 ・書写の授業で学んだことを、各教科の学習や、日常生活に生かす能力を育成することが重要と考えるが、この書写の教科書の内容は、ほかの教科や日常生活で生かすような工夫がどのようにされているのか、具体的に教えていただきたい。
- 調査員 ・調査員の間では、例えば教育出版の14ページ等を開いていただくと、ノート、縦書きや横書きの書き方というところがある。教科によっては横書きや縦書きをする教科があると思うが、こういったほうが見やすいよ、というような提示をする際に、どういうふうに行けばいいんだろうと困る生徒もいると思う。そういった子たちが、こういうふうにはまずノートを取ってみようという気づきにはなるというような話題は上がった。そういったところで他教科との関連、国語ではこういうふうに行くけど、例えば社会とかではこういうふうに行く、というような関連は持てるというような話題は上がっていた。
- 委員 ・先ほど国語の担当の調査員にも同じことを聞いたのだが、現在、伊勢原市は、国語の教科書と書写の教科書の発行者が違うと思うが、それによる、よさや、不都合な点があったら教えていただきたい。
- 調査員 ・これも調査員の間や、各校で話にはなっていることだが、やはり同じ発行者であれば、関連性が見てとれるというのは確かにあると思う。書写だけにおいて、子どもたちがどのようなことを学ぶために何が見やすいかとかという点では、発行者が違うところはあまり不都合ではないのかなというような話はした。
- 委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。では、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・では、検討に入る。御意見や感想をお願いします。
- 委員 ・近年、1人1台の端末の活用が図られる中で、自分の手で文字を書く機会というものが減ってしまうということが懸念されると思う。そういった点では、書写の時間を充実させること、特に基礎・基本をしっかりと指導す

ることが大切なのではないかと考えている。各者ともに、姿勢だったり、筆記具の持ち方等が掲載されている。特に東京書籍では、「これまで学んできたこと」として小学校で学んだことがまとめられており、中学1年生の学習につながるような工夫がされていると思う。教育出版や光村図書、こちらでは、姿勢にチェック欄を設けることで、生徒が自分の姿勢を意識できるような工夫がされていたと感じている。

- 委員 ・どの発行者も1年生の最初の学習で、毛筆の筆遣いについて、点画の種類を紹介している。それとともに、薄い朱墨が随所で用いられていて、筆の動きが非常に分かりやすいと感じた。特に東京書籍のは、穂先の向きがイラストで示されていて、運筆についてより生徒が自分自身で確認しながら進められるように工夫されていると感じた。
- 委員 ・毛筆については、手本の掲載の仕方についても、各者特徴が見られた。東京書籍と三省堂は見開きの左ページに、教育出版は右側ページにそれぞれ手本が掲載されていた。また、三省堂、教育出版、光村図書では、見開きの両ページに手本が載っていた。
- 委員長 ・調査員の報告にあったが、生徒が主体的に学ぶための工夫について、各者それぞれいかがだったか。
- 委員 ・どの発行者も、巻頭に学習の進め方が示されていて、生徒が主体的に学ぶことができるように構成されていると感じた。各者とも、各ページに目標が明示され、意識しながら学習に取り組めるようになっていたり、学習した後に振り返りができるようになっていたり、工夫されている。さらに、生徒が主体的に学ぶという点では、はがきとか、お礼状とか、荷物の送り状とか、入学願書、特に入学願書などは、生徒も非常に意識が高いので、非常に主体的に学べると感じた。ただ、神奈川県は願書はもうほとんど電子化されている。よく見ると、電子化に対応したページの記載もあつたりするので、そういう点では、書写を通じていろいろなことが、社会生活が学べる、主体的に学べると感じた。
- 委員 ・先ほど質問にもあったが、小学校では発行者が国語と書写で関連性があるので、そこで同じにすることがよくある。子どもにとって混乱がなくいくかと思うが、やはり中学校ではそういうところは考慮する必要はないのかと、若干感じた。
- 委員 ・今、質疑の中の回答にもあったが、やはり同じことによるよさもあれば、違うことによるよさというのもそれぞれあると思う。生徒の学びやすさであつたり、それから、先生方の授業での使いやすさ、そういうところが一番重要になってくると考える。
- 委員 ・保護者として見たのだが、ふだん子どもが持っている教科書をあまり見たことがなかったが、少し驚いた。私たちが学んだときよりもすごくよくできていて、こんなに役に立つ書写があるのだなというのが正直な感想である。電子化の時代であつて、ちょっと過剰な情報があるかと思つたが、インターネットで調べなくて、これを見れば、全部生活に役立つ。そして、主

体的に学ぶという工夫がよくなされていて、本当に印象がよかった。子どもにこういう学びが提供されているというのは、本当にうれしいと思う。

- 委員長 ・ほかによろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴やよさがあつたことを報告させていただく。これで、書写の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・地理については、4者から発行をされている。調査員は、報告をお願いします。
- 調査員 ・報告(中学校用教科用図書調査研究の結果(令和7・8・9・10年度用)平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり)
- 委員長 ・ただいまの報告について、御質問をお受けする。いかがか。
- 委員 ・神奈川県についての写真や資料があることが、例えば生徒が学習を進めたり、先生が授業を行ったりする上で、何か、よさがあつたりするか。
- 調査員 ・例えば日本の諸地域だと、関東地方というところの單元があるので、もちろんその中では、関東地方の中で神奈川県を学習するというページが必ず4者とも設けられている。日本の諸地域というところの一番最後で、身近な地域の調査という單元があるが、4者ともに身近な地域を調査しようというところがあるので、そこで神奈川県のことについては十分触れられる。
- 委員 ・地理の学習では、地域的な課題や地球的課題を扱う中で、やはり持続可能な社会づくりというのが重要な視点だと思う。そういう視点でいうと、各者、SDGsに触れているが、具体的にSDGsの視点は、日頃の中学校の学習でどのように取り入れられているか。
- 調査員 ・SDGsの観点については、特に世界の諸地域という單元があるが、そこで具体的な例として、アフリカ州において、人口問題だとか食糧問題が触れられているというのが4者ともある。先ほども述べたが、日本の中では、最後の日本の諸地域が終わった後に、身近な地域の調査というのがあり、その身近な地域の調査でもSDGsとの関連から物事を見ていくというページがそれぞれある。
- 委員長 ・ほかに御質問はあるか。よろしいか。では、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・では、感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。
- 委員 ・各者とも、生徒が多面的・多角的に物事を考察・構想し、表現するための工夫がされていると感じた。教育出版、日本文教出版は、見開きごとに学習課題の発問と確認、表現のコーナーが設けられ、話合いや説明などの学習活動に取り組みやすいと感じた。帝国書院は、写真や図を使って課題について考えることができる「説明しよう」が掲載されている。生徒が理解を深め、対話的な活動をするのによい工夫であると思った。東京書籍は、「みんなでチャレンジ!」が設けられ、小集団での話合い活動が行いやすい工夫がされていた。

- 委員 ・どの発行者も、基本的に1時間の授業を見開きでまとめている、それが非常に特徴的だなと感じた。学習内容のはじめのところでは、学習事項ごとに課題が設定されていて、章末のところでは学習内容の振り返りやまとめができる構成になっていた。振り返りでは、これまで学んだ知識を生かして個人で考える個人学習であったり、また、グループ学習の中で学び合い活動をしたり、そういう中で様々な意見に触れることができるような課題が設定されていた。非常に見やすく、いわゆるユニバーサルデザインというのが意識され、多くの人にとって見やすい構成になっていると感じた。
- 委員 ・重なるところがあるが、どの発行者も、まず世界と日本の地域構成、そして、世界の様々な地域、日本の様々な地域という形で分かれている。最後には、今日的な課題に迫るということで、地域の在り方が設定されている。特に、各者の最後に設定されている地域の在り方というところに工夫が見られると感じる。具体的に言うと、帝国書院では追求するテーマの項目、これが具体的に提示されている。情報収集の仕方や、発表の仕方が分かりやすく説明されている。それから、教育出版では、日本における課題例を示した上で、特定の地域、先ほど神奈川、関東という話もあったが、そちらに触れて、その課題についての知識を深めることができる内容となっている。東京書籍は、様々な写真を通してその課題に、日本と世界、どちらも課題を振り返り、自然な流れで調べ学習を子どもたちができる。そして、地域に視点を当てたテーマを考えやすいような工夫がなされている。日本文教出版は、テーマの設定から発表に至るまでの道筋というものが示されている。地域の在り方について考えていくという見通しが立てやすいと感じた。
- 委員 ・小学校での学習内容というものを振り返ったり、また、関連を示したりするなどの工夫が見られたと思う。例えば、帝国書院、日本文教出版はアイコンや、ページの下の方に小学校の学習との関連が示されている。また、教育出版では「地理にアプローチ」というコーナーがあり、小学校での学習を振り返り、中学校での学習につながるという工夫がなされていると思う。
- 委員長 ・ただいま委員のほうから、小学校とのつながりといったところで御意見をいただいたが、社会科のほかの分野や、またはほかの教科とのつながりといった視点ではいかがだったか。
- 委員 ・それぞれの教科書で工夫はなされていると感じる。東京書籍では、他分野、他教科との関連を図った学習がマークで示されている。それから、帝国書院に関しては、ページの下の方に、「これまで学んだこと」が示されている。また、先ほどもいろいろな質問の中にもあったが、SDGsの視点を持つというところで、「未来に向けて」のコラムを随所に帝国書院は持つことで、持続可能な世界の実現というものを意識させていると感じている。また、他分野というところで、日本文教出版では、歴史・公民分野との関連やテーマが投げかけられているというふう感じた。教育出版に関しては、関連する他の分野のテーマがそれぞれに示されているというふう感じた。ど

の発行者も、歴史分野、それから、公民分野との関連が分かるような形でマークをつけたり、コーナーを設けたりという形で工夫されていることがうかがえた。

- 委員 ・地理というと、写真やグラフ、地図等の資料から情報を読み取って活用する力を育成するということが大切だと思う。そのためにつながりというものがあると思うのだが、東京書籍では、「資料から発見」というところで、資料を読み取る際の視点を示している。教育出版では、「地理の技」で、略地図の描き方や雨温図の読み取り方を示していたり、日本文教出版では、スキルアップで必要な技能を6種類に整理して配列していたり、帝国書院では、「技能をみがく」というところで、地理の学習に必要な技能の習得がコラム形式で掲載されていて、使いやすいと思った。その中でも特に写真の読み取り方、グラフの作り方、この辺りの分野は特に分かりやすかったと思う。
- 委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴やよさがあったことを報告させていただく。これで地理の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・地図については、2者から発行をされている。報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・ただいまの報告について、御質問を伺う。
- 委員 ・地図帳は、地理的分野、歴史的分野、公民的分野それぞれ学習の中でどのように使われているか教えていただきたい。
- 調査員 ・歴史的分野だったら、例えば戦争が起こった場所を地図を使って確認をするといったことで使う。公民では、例えば東京の学習で最高裁判所や、国会議事堂などが東京のどの辺にあるのかと確認するときに使ったりする。
- 委員 ・今、使っている教科書が、地理の教科書と地図の教科書がどちらも帝国書院で同じだが、例えばこれが違ってしまってもよいか、それとも同じほうがいいのか、どちらかというのはあるか。
- 調査員 ・これは私見になってしまうかもしれないが、学習指導要領の中で、例えば日本の諸地域で、例えば九州地方だったら、自然環境の視点から見てくださというふうに学習指導要領の中ではなっている。教科書は変われども見ている視点は一緒で、それに基づいてそれぞれ地図帳のも作られているので、特に変わっても、そこまで大きな違いというものはないと私の中では思っている。
- 委員長 ・ほかにいかが。よろしいか。では、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・それでは、感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。いかがだったか。

- 委員 ・ 2者ともに、写真やグラフ、図が多く使用されていて、生徒が学習に取り組む上では非常に見やすい、使いやすい、そういう工夫がされていると感じた。帝国書院は、世界の各州のところで鳥瞰図が掲載されていて、位置や空間的な広がりがあり、これが非常に捉えやすいと思った。地図も、明るい色遣いで、地図上の文字も読みやすいと思った。また、高低差、標高がはっきり分かるように、めり張りをつけた鮮明な色遣いがされている、日本の地形の特徴がつかみやすくなっていると思った。東京書籍は、世界の各州について、全体図と州ごとの全体図、それから、主題図、海洋、極地、こういう点に着目した地図が掲載されていた。写真には見出しのほかに補足的な説明が加えられていて、地域的な特色を捉える視点に立って構成されていると感じた。
- 委員 ・ 帝国書院、東京書籍ともに、先ほどあったように、歴史的分野と公民的分野の学習と関連した地図や資料が掲載されて、そういった点を意識されて掲載されているのがよかったと思う。まず、帝国書院では、小学校での地図に関する学習内容をもう1回巻頭で振り返っていたり、歴史的分野、公民的分野、SDGsという、関連した学習のために地図資料や統計資料が掲載されたりしていた。そのほかに、将来的な課題である環境問題、人口問題、防災についての資料が掲載されており、今大事になっているが、持続可能な社会に向けた取組について考えを深めることができるような工夫を帝国書院はしているように感じた。東京書籍においても、先ほどあった歴史的分野、そして公民的分野との学習の連携を深めるために、地図資料、統計資料が掲載されていた。あと、東京書籍では、紛争問題や環境問題、そして移民問題等といった現代の諸課題について理解を深めるための資料が掲載されていたので、それぞれよい面があると感じた。
- 委員 ・ 両者とも、巻頭で地図帳の活用方法を示し、生徒が自ら進んで学習できるように地図帳が使えるような工夫がされている。帝国書院では、学習内容を地図で確認する「地図で発見」というのが随所に設けられており、地図技能が自主的に身につくよう工夫されている。また、SDGs関連の学習を地図を通して行うことができる「地図で考える持続可能な社会」が、これは調査員も言っていたが、掲載されている。東京書籍では、地図の深い読み取りや複数の地図の比較、発展的な学びを促すために蜜蜂のキャラクターが問いかける「Bee's eye」というのが設けられている。また、修学旅行で活用できる京都・奈良の市内地図が掲載されている。これも調査員が言っていた。また、どちらの発行者も、自主的な学習に活用できるように、衛星写真や統計資料等にアクセスできる二次元コードが掲載されているので、使いやすいと感じた。
- 委員 ・ 単純に、私たちが見ていたときの教科書より面白いし、見ているだけで勉強になるというのがまず第1の感想だ。あとは、うちの子もでいうと、結構電車の路線とかを見ているのが好きなようで、そういう各鉄道とかも地図上に記されているので、その距離感とか、そういったところを含めて、

本当に大人が勉強になる教科書だなというのが第一印象である。あとは、大人目線で言えば、世界に目を向けると、地理的問題が、要は、ほかの社会的な、戦争の話だとか、公民とか歴史とかそういったところを勉強するきっかけや、そういうリンクされているところが非常に多い印象があったので、すごく役に立つ教材だと思う。本当にすごく多角的に学ぶチャンスがあるのではないかというのが印象である。

- 委員 ・この両者ともに、巻末のほうの、例えば世界の農林水産業とか、資源・エネルギーとか、交通・通信・国際関係とか、そういった情報が地図に反映されてプロットされているものがとても分かりやすく、勉強に生かせる、主体的に学ぶために分かりやすく、学びに影響しやすい形になっているのがとても印象的である。あとは、地図上に、ちょっと面白いなと思ったのだが、伊勢原に大山豆腐のマークがついて、黒豆だったか、そういうのあったかなとか、そういうのが少し気になって見れて、とても見やすい地図である。
- 委員長 ・活発な御意見をいただき感謝する。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴やよさがあったということで御報告させていただく。これで地図の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・歴史については、9者から出されている。それでは、調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・今の報告について、質問を伺う。いかがか。
- 委員 ・生徒がそれぞれ各分野において、社会的な見方・考え方というもの働かせる学習、これができるための工夫や配慮、この辺を具体的にもう少しだけ教えていただきたい。
- 調査員 ・冒頭のほうに、先ほど紹介した東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社、令和書籍の6者では書いてあるが、例えば東京書籍では、見方・考え方として、時期や年代、推移、比較、相互の関連、現在とのつながり、こういう視点で子どもたちが歴史を考える、こういう視点で歴史と出来事を見ていくんだよというのが紹介されている。ただ歴史を学ぶのではなくて、比較したり関連づけたり、時期推移で、あと、子どもたち自身がその出来事を考察する、そういった視点があらかじめ示されているので、社会、歴史を子どもたちに教える段階としては、そういう視点があるほうが学びやすいと思う。
- 委員 ・主体的・対話的で深い学びにつなげるための学習課題が教科書に提示されているかどうか教えていただきたい。
- 調査員 ・主体的・対話的で深い学びについては、細かく挙げたら多分この発行者も入っている。主体的・対話的で深い学びの場面だよ、と書いてあるのは、今回の8者にはあまりなかったと思う。今使っている教科書は結構明

記されていたと思うが。調査研究資料にあると思うが、問いがあつて、それに対して最後、章末で自分の言葉で表現する、ただ教え込まれたことを知識として学習するのではなくて、それらを網羅して、この課題について自分たち自身が考えて結論を出す、そういった活動自体はどの会社も割と取り上げられていたと思うので、これが主体だよ、主体的・対応的で深い学びの場面だよ、と書いてある発行者もあったが、全部の発行者がそういった視点を持ってつくられているとは思ふ。

○委員長 ・ほかに御質問はあるか。よろしいか。それでは、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

○委員長 ・それでは、皆さんの感想や意見を基に協議を進めていく。いかがか。

○委員 ・各者、第1章や初めに、歴史の流れを捉えるために、小学校の学習との接続を円滑にというような記載があり、それぞれ特徴があつたかと思う。教育出版では、小学校で学んだことを思い出しながら取り組むことができる「歴史ゲームで遊ぼう」というコーナーを設けて興味・関心を高めているように感じた。また、東京書籍、帝国書院、育鵬社、日本文教出版では、歴史上の人物や主な出来事等のイラストをたくさん使っていて、小学校で学んだことを思い出させる、円滑に移行できるような工夫がなされていてよかったと思う。

○委員 ・各者の教科書の導入では、生徒の興味・関心を引き出すための工夫がされているなど感じた。その中でも教育出版は、導入に歴史的な見方・考え方を働かせながら資料を読み取る「LOOK!」というコーナーが設定されていた。また、帝国書院は、「タイムトラベル」が用意されており、これから学習する時代はどのような時代なのかイメージを膨らませる工夫がされていた。また、東京書籍は、「みんなでチャレンジ」が設けられ、小集団での対話的な学習の場面が設定されていた。

○委員 ・ぱっと見たときに、教科書のサイズが2種類あると思う。唯一、令和書籍がA5判を使用されていて、縦書きで書かれている。ほかの東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、山川出版、育鵬社、自由社、この7者については、A4判が使用されていて、なおかつ横書きで書かれている。どの教科書も写真や図が大きく、見やすいという印象がある。

○委員 ・歴史の学習の中では、大まかな歴史の流れだとか、歴史の前後関係とか、そういうものをつかむことが必要と思う。そのためには年表を、自分たちのときは本当に覚えるという感じだったが、読み取ることを意識させることが必要かと思った。教科書を見ると、例えば日本文教出版や帝国書院、東京書籍などは、右ページの右端のところに時代が全部書いてあり、今このところを学んでいるよというのが分かるようになっていて、非常に分かりやすくなっていると思った。ほかはどうかと思って見たが、教育出版は、左ページの学習課題のところに書いてあり、育鵬社、自由社は左ページの左下、この下の部分に書いてあり、各者とも工夫がされていると思う。

- 委員 ・生徒が課題を追求・解決するための活動の充実を図るために、各者工夫・配慮をされているというふうに感じているが、例えば自由社は、章の終わりに、生徒の探究を促すために調べ学習のページが設けられている。また、東京書籍は、単元末で、探究課題を考えられる「深めよう」というところがあるが、近代前半のところなどでは「くらげチャート」というのが紹介されているなどの工夫がされていた。また、帝国書院は、主体的・対話的で深い学び、そして、指導と評価の一体化、これを実現できるように、節の問い、章の問いというのが設定されている。日本文教出版は、まとめと振り返りのページが設定されていて、その問いに答えることで、時代の特色を捉えることができるというような活動が設定されて、各者、工夫されていると感じた。
- 委員 ・生徒にとって分かりやすく、理解が深まる工夫として、どの発行者も、見開き2ページで1テーマを構成している。最初に学習の課題が配されて、その後、右下には、振り返りのコーナーが掲載されているのが多かったと思っている。特に帝国書院、教育出版、日本文教出版、育鵬社は、学習課題に対して確認することや説明することを分かりやすく具体的に提示している。振り返りについては、育鵬社、教育出版、日本文教出版に見られたのだが、知識・理解の定着を促す学習の確認と、説明等の言語活動を行う応用の2段構成がされていると感じた。
- 委員 ・各者それぞれ様々な工夫がなされていると思うが、二次元コードを使用して学習の参考にする、資料等を見ることができるという発行者も幾つかあったかと思う。まず、東京書籍が、各章の導入ページ、展開ページ、まとめページそれぞれに二次元コードがあり、デジタルコンテンツというのか、これを利用して、分かりやすく、楽しく学習できるように工夫されていると感じた。また、それ以外にも、帝国書院、日本文教出版、それから、山川出版にも、同じような形で二次元コードが掲載されており、子どもたちが自分で振り返りをしたり、探究したりというところに役立てられると感じた。
- 委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。各者それぞれに特徴やよさがあったことを報告する。これで歴史の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・公民については6者から出されている。調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告(中学校用教科用図書調査研究の結果(令和7・8・9・10年度用)平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり)
- 委員長 ・ただいまの調査内容につきまして、質問をお受けする。いかがか。
- 委員 ・公民の学習は、地理や歴史の学習と深く関わっていると思うが、全ての教科書が同じ発行者でなくてもいいのか、違っていても問題ないのか、教えていただきたい。
- 調査員 私の個人的な見解、経験になってしまうが、今まで同じものを扱った場合もあれば、違うものを扱った場合もある。ただ、扱っている中では、同

じだから、違うからといって特に差異がり、やりやすい、やりにくいというのは特に感じたことはないので、そろっていても、そろっていなくても、大きな影響はないかと思っている。

- 委員 ・2点お願いします。授業の中で、自分の考えを深めるような、議論する活動というのはあるのかということが1点。もう一つは、教科書の中でそういう活動を設定するような工夫というのがあったかどうか聞かせてほしい。
- 調査員 各者ともに、言語活動の部分には力を入れて、いろいろなコラムが設定されていた。コーナーの名前等は教科書によって異なるものが多いが、具体的な活動としては、グループで活動して答えを導き出すものや、クラス全体でディベートを行うような活動というのが、場面はいろいろだが、各社ともに、章末とか学習の中で多数掲載されていた。
- 委員長 ・ほかに御質問はいかがか。よろしいか。では、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・それぞれ皆様の感想や御意見を基に協議を進めていく。いかがか。
- 委員 ・今、説明があったが、公民的分野というのは中学で学ぶのだが、小学校の社会の授業でも扱うところがある。それが小学校から中学校にうまく接続できるように各者工夫されていたのがよいと思った。東京書籍、日本文教出版、そして育鵬社では、小学校で習った語句や事柄が掲載されているのがよいと思った。教育出版や帝国書院では、小学校で学習したこととの関連が分かるようにそれぞれ工夫されていたのがよかったと思う。
- 委員 ・今、小学校の社会科の話もあったが、関連性で言えば、地理と歴史の関連性も意識して学習することが必要と考えている。その関連性について、東京書籍、また、育鵬社については、マークで示されていて分かりやすくなっているという感想をもった。帝国書院については「公民的分野の学習の全体像」というところで、日本文教出版では「地理・歴史とのつながり」というところ、教育出版では「関連」という項目でそれぞれ関連性が示されていたと思う。
- 委員 ・基礎的・基本的な知識の定着や振り返りという観点で各章のまとめを見てみた。東京書籍、教育出版、日本文教出版は、知識、思考、判断、表現、主体的に学習に取り組む態度の観点別にまとめられており、振り返りしやすいと感じた。特に東京書籍は、振り返りながら自分の考えをさらに深めたり、多面的・多角的に考えたりできるようなつくりになっていると思った。
- 委員 ・各者ともいろいろと体験的な活動の充実を工夫していると思ったが、その中で印象的だったのが育鵬社で、生徒が裁判員になって模擬裁判を行うような学習活動があり、「裁判員になって判決を考えよう」というページで、具体的な事例が載っていて、それについてグループで話し合っ考え、様々な意見を踏まえて有罪か無罪かを判断するというような活動がある。そういう活動を通して、思考力とか判断力とか表現力とかを養っていくことにつながると思った。また、日本文教出版では、株式投資の体験活動が設定されて

いた。どの企業に投資するか考えるのは、生徒が興味を持って取り組めると思った。自由社では、食糧問題や防災問題について意見をまとめる活動があり、それについてもよいと感じた。

- 委員 ・公民というのは、やはり今これから生きていく子どもたちにとって、自分事として捉える、それから、主体的・対話的で深い学びを行うということによって導き出すというところでは、各者とも、章の初めに課題や問いを設定していて、単元を通して見通しを持って学習できるように工夫されていたと感じている。特に東京書籍においては、探究課題、探究のステップ、学習課題、この3段階で問いを設定しており、課題を解決していくという流れがとても分かりやすく、生徒にとっても取り組みやすい工夫がなされていると感じている。また、教育出版においては、問いを中心に単元を通して、課題解決していくという学習の流れ、これで構成されているというところが印象的だった。生徒が主体的に学習する力を育成できる構成だと感じている。
- 委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。活発な御意見をいただき、感謝する。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴やよさがあったということで報告をさせていただく。これで公民的分野の検討を終了させていただく。
 - ・皆様の御協力をもって、午前の部が終了した。休憩とさせていただく。

(休 憩)

- 委員長 ・皆様お集まりなので、再開をさせていただく。
 - ・数学は7者から発行をされている。調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・ただいまの報告について、御質問を伺っていく。いかがか。
- 委員 ・数学的な見方・考え方を働かせた学習活動を通して目標に示す資質・能力の育成を目指していくと思うが、各者、この数学的な見方・考え方をより確かに捉え、豊かなもののできるような工夫はあるか。
- 調査員 ・各者それぞれ捉え方は変わってくると思うが、そういった活動をするページ、設問等はあったと私は感じている。
- 委員 ・数学は、分からないところがあると、次のステップへ進みづらい教科かと感じるが、例えば、何か生徒がつまずいたときに、そのつまずいたときの対応として、教科書の中でのどのような工夫があるか、教えていただきたい。
- 調査員 ・今私が使っている教科書と比べると、1人1台端末の普及が進んだおかげなのか分からないが、先ほども幾つか説明したが、二次元コードを使ってより自分に合った学びというものが捉えられるような作りがいろいろな発行者であった。数学が苦手な子でも自分で1人1台端末等を使って自分のつまずいたところを振り返りながら、誰かに教わることなく、ICTを活用して学びに取り組むというのができるようになってきていると感じた。
- 委員長 ・ほかに何か御質問はあるか。よろしいか。では、ここで調査員は退

室をお願いする。

(調査員退室)

- 委員長 ・それでは、感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。いかがか。
- 委員 ・数学を活用して身の回りの問題を解決する課題や社会とのつながりを想起させる話題を通じて、数学の重要性を感じられるようにすることも必要だと思う。その中で、教育出版は、協働的な学びの場面として各章の初めに導入課題、「レッツ・トライ」を設け、生徒の生活に身近な題材で対話的な学びを取り入れる工夫が見られた。大日本図書は、「学びにプラス」を設け、学習をさらに広げたり活用したりする問題を通して数学の良さを実感できるようになっていた。巻末の資料などでも数学の楽しさや有用性を実感できる読み物が設けられているのがよいと感じた。
- 委員 ・7者それぞれ、1年生の入りのところは、小学校で学んだことをベースにして思い出しながら学習してというような工夫がどこもされていて、小学校から中学校へ円滑な接続ができるように工夫されていると感じた。特に東京書籍は、1年生の入りの1節のスタートのところ、九九の表からスタートしている。九九の表から決まりを見つけていく、演算を、小学校でやったことを思い出しながら、中学校で大事なキーになる規則性を見いだしていくというような、小学校からの学びのつながりが感じられて、非常にいいなと思った。生徒が学びのつながりを自覚できるように、吹き出し等で示して工夫がされていると感じた。
- 委員長 ・先ほど調査員の報告の質問にもあったが、数学に苦手な意識を持っている生徒が少なくないと感じているところであるが、少しでも数学に興味を持てる、そういう工夫のようなどころで何か気がつかれたところなどはあるか。
- 委員 ・数学の苦手な生徒にとって、数式や理論だけではなくて、具体的に見て操作することが非常に大事かと、1つの手立てかと思った。そういった意味では、各者とも実際に見たり操作したりして取り組める内容にはなっていると感じた。特に図形の学習では、作図や面積、空間図形において、目に見える形でやるのが大事であると思う。1年生の巻末の部分では、こうやって付録が全部載っている。実際にこれを切り取って、実際に自分で操作することによって、より理解を深められるのではないかと感じた。特に東京書籍と教育出版では、複雑な図形まで豊富に用意されていたり、日本文教出版では、展開図をそれぞれに明確に示されていたりしたので、数学の苦手な子にとっては、そういう手立てがある教科書がいいと思った。
- 委員 ・主体的・対話的で深い学びという観点で、学習活動の工夫や配慮が各者あると思った。特に東京書籍では、題材にストーリー性を持たせて一貫した内容で展開しており、生徒の学ぶ意欲を高めて、導入の内容を中心に本文の中で解決したりさらに深めたりできるようになっているのがよいと思った。数研出版では、「Q」や「TRY」という活動場面が用意されていて、生

徒のキャラクターの対話場面を示したりしながら、題材に対してどういうふうに取り組むかということが示されているので、一目で分かってよいと思った。日本文教出版は、巻末に「対話シート」という切り離せるものが用意されていて、応用問題を多面的に見られるように、それを自分で会話しながら深められるシートがついている。学校図書では、教科横断的な学習課題の工夫として、章末の「深めよう」や巻末の「疑問を考えよう」などの課題を通じて、章ごとの学習だけでなく、領域を横断し、教科横断的な学習に取り組むことができるようになってきていると感じた。

○委員 ・数学に限らないが、苦手な生徒だけに言えることではなく、全ての生徒が大事にする場面として振り返りがあるのではないかと考えている。東京書籍では、ほぼ全ての節に「学びをふり返ろう」というものが載っていて、先ほど質問にも出たが、数学的な見方・考え方、この振り返りもできるようになっている。また、日本文教出版では、「学び合おう」や「振り返りシート」、これにおいて学習の振り返りの観点というものをしっかりと明示している。生徒が自分自身の変容を自覚するのにすごくプラスになっているのではないかと感じられた。大日本図書では、章末の「ふり返ろう」の最後の問いで、その章で学んだことよき、これに気づくことができるような設問を設けている。この点はいいなと感じた。

○委員 ・今、振り返りという話があって、これも苦手な生徒だけということではないと思うが、説明にもあったが、最初に何を学習するかとか、めあてとか課題が示されている。それがあって最後の振り返りということなのかと思うと、各者ともにそういうものがあつたと思う。示し方はそれぞれだつたと思うが、東京書籍は学習課題というような形で、それが言葉として出ているものもあれば、最初にマークで示されていて出ているものもある。大日本図書や日本文教出版、数研出版などは「めあて」と書いてあつたり、学校図書、それから新興出版社啓林館も「目標」というふうに示されていたりと、目標やめあてというのが明確になっている。授業の最初にそれを使って生徒たちに示しやすくなる。それから、それについて生徒が考えて解決していくという流れがつくりやすいと思ったので、そういう形でゴールなどが明確に把握できるとよいと思った。

○委員 ・特に数学なんかは習熟度に差が出る教科、一番だと思うが、数式とか数字を見ているだけでも嫌だという子どもが割と多いんじゃないかと思う中、各者魅力的だつたのだが、学校図書は、プログラミングを体験してみようと、スクラッチのソフトを使ってやっている、すごくいい取組かなと思う。勉強だけではなくてゲームとかそういうのに興味ある子が非常に多いため、こういう操作をしながら主体的に学んでいく教科書づくり、これから、こういうのが魅力的なのではないかと思った。これからの学校教育はプログラミングが採用されるという話も聞いていおり、非常に印象がよかつたと思う。

○委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。では、御検討いただいたように、各

者それぞれに特徴や良さがあること報告をさせていただく。これで、数学の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・理科は5者から出されている。調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・ただいまの調査員の報告について、御質問を受けたい。いかがか。
- 委員 ・発行者によって領域の掲載順が多少違う。大前提として教育課程の編成は学校で行うことは重々承知だが、教科内で既習事項との関わりや他教科との関係等、どの掲載順がいいとか、それから、掲載順が変わることによってこういう不都合が生まれるとかがあれば教えていただきたい。
- 調査員 ・私が現在、授業の中でやっているところとしては、特に不都合というのはあまり感じることはない。むしろこちらが先行してしまった部分を他教科でやって、ここでつながってくるのだとか、それを他教科の教員とも確認して、やったでしょうと復習をしたりというのもできるし、もちろん、数学や技術科や家庭科でやったものなどがこちらに反映されるということもあるので、そこに対しての問題は特に感じない。先に出たら先に出たなりの、後から出てきたら後から出てきたなりの対応ができるので、順番においてはそこまで他教科との関わりはない。ただ、それぞれの教科の中での順番というのが、慣れたものとそうでないものがあり、それは、自分1人でその学年をやっていれば変更できるし、自分1人でやっていなければ、それぞれ一緒に組んでいる教員との関わりで、あまり慣れていない方がやるのなら、こちらがリードしてあげることもできるし、お互いに考えてやることは、先を見据えれば可能かと思っている。
- 委員 ・理科は観察や実験が多いと思うが、安全に学習を進めるに当たって、実験の道具や器具の使い方というところの指導が欠かせないと感じている。先ほど器具の使い方についても話があったが、そういった安全面の指導について、教科書で各者何か工夫しているところや配慮されている点はあるか。
- 調査員 ・特に今年度のものについては、二次元コードが掲載されているものが多く、それを見せたりとか、やはり視覚的に訴えたほうがいいかなと私は思っているので、二次元コードが載っている、そこを見せることで、その辺の関係は対応できる。また、生徒自身が自分で確認ができるので、手元でその辺を確認してからやらせることもできるなという展開は頭の中ではできる。
- 委員長 ・ほかにはいかがか。よろしいか。それでは、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・では、検討に入る。御意見や御感想を伺いたいと思う。いかがか。
- 委員 ・理科は、生徒自身が観察だったり実験といった探究の過程を通じて学習をしていくことが大切と思っている。その上で必要なのが、先ほど質問

したように、道具だったり器具の安全な使い方、これについて学ぶことと感
じている。教科書を見ると、どの発行者も、観察・実験のときに使用する道
具だったり機器の使い方、基本の操作というものがイラストだったり写真を
使って分かりやすくまとめられていた。また安全に理科室を使用する点につ
いても各者掲載されていたのでよかったと思う。

- 委員 ・今、観察や実験という話があったが、そういう観察・実験などを通
して、それをやりっ放しにするんじゃなく、いかにまとめていくかというこ
とが非常に大事かと考える。各者とも実験結果を記録するスペースなどを設
けているが、特に教育出版などは比較的ゆとりを持ってスペースを取ってい
るのがよいと思った。新新興出版社啓林館は、先ほども出たが、巻末に「探
Qシート」というのがあるので、それがワークシートの代わりで、仮説、計
画、結果までという一つの課題が完結するまでの流れができていたので、非
常によかったと思う。それ以外にも、まとめるということは非常に大事なこ
とだと思うので、レポートのまとめ方についても、各者とも書かれているの
がよかった。
- 委員 ・どの発行者においても、単元の初めに関連する既習事項を確認する
コーナーやこれから学習する内容を見通すコーナーが設けられており、生徒
が学習内容のつながりや学習の見通しを持って取り組むことができる工夫が
なされていると感じた。特に新興出版社啓林館の「学ぶ前にトライ！」では、
学習前に取り組むことで学習への見通しや学習後の具体的な姿をイメージす
ることができ、「学んだ後にリトライ！」では学習後に改めて取り組むことで、
自身の学びや成長が実感できるよい仕掛けだと思った。また、学校図書の
「CanDoList」も、単元において身につけたい目標が3観点から具体
的に示されているのが分かりやすかった。
- 委員 ・先ほどの説明にもあったが、どの発行者も巻頭のガイダンスの部分
で探究の学習過程を紹介している。理科の学習は探究の過程がとても大事で、
それを通じて進めていくかと思う。説明されていた教育出版は、折り込みで
探究の過程が掲載されていて、とても丁寧に説明されている。各者とも、紙
面の構成やマークでそういう過程を意識できるようにしていると思ったが、
その中でも東京書籍は、見開きページの右下ところに、学習課程、今これだ
よというのが示されていて、より生徒が意識しながら取り組めるのではない
かと感じた。
- 委員 ・先ほどから探究という話も出ているが、単元全体を通して身につけ
た理科の見方・考え方、それから探究する力というものを生徒が発揮する場
面というものがあること、より主体的に取り組むようになるのではないかと
、それが期待されるのではないかと思う。その中で、例えば、新興出版社啓林
館には、単元末に「みんなで探Qクラブ」、また、大日本図書では、やはり同
じく単元末に「探究活動」というのがあ。それぞれ生徒が学習内容を生か
して自ら探究を進めることができる課題が設定されていると感じた。また、
同じような考え方で、自由研究にもこれは有効と考える。東京書籍では、1

年生では「はかる」、2年生では「見る」、3年生では「考える」といった視点で、それぞれの自由研究のテーマ例を提示している。教育出版では、自由研究に取り組む過程を図を使って説明している。それから、大日本図書においても、学習内容に関連した複数のテーマを自由研究として提示していると思った。

- 委員長 ・生徒が理科を学ぶことの意義や有用性または必要性を感じられたり理解の興味・関心を高められたりするような工夫、そういった視点で何か御意見はあるか。
- 委員 ・生徒の興味が高まったり学習内容が深まったりするには、ものづくりをはじめとした体験活動の充実が必要かと感じている。大日本図書では、「やってみよう」のコーナーを随所に設け、例えば、1年生でレンズについて学習した後に、目の模型を作ってみようで紹介したり、2年生で炭酸水素ナトリウムを学習した後、カルメ焼きを作ってみようで紹介したりするなど、体験を通して学習を深める工夫が感じられた。同様に東京書籍でも「おてがる科学コーナー」で、地震の学習の後、コンニャクを使って地震の動きを感じてみたり、磁石の学習ではリニアモーターを作ってみたりするので、点数だけでなく、実際やってみて、うまくいったりうまくいかなかったりすることが子どもの興味を高めるのかなと感じた。
- 委員 ・中学生が理科を学ぶ意義とか有用性を感じる時というのは、日常生活や社会との関連を感じたときなのかなと思う。そういう観点では、各者いろいろと工夫をされていると思うが、例えば、東京書籍では、「まちなか科学」というコーナーがあったり、「社会につながる科学」というものがあったりする。大日本図書では、「Science Press」、それから「くらしの中の理科」というコーナーを設けていた。それから、学校図書は、巻末の資料のところにそういう部分があり、教育出版は、「ハローサイエンス」、それから「広がる科学の世界」、そういうコーナーがあった。新興出版社啓林館は、「深めるラボ」とか「防災減災ラボ」というような「何々ラボ」というようなコーナーを形として設けていて、それぞれの切り口から日常生活や社会のつながりを示している、そういう工夫が見られた。
- 委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあつたことを報告させていただく。これで、理科の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・音楽（一般）については、2者から出されている。では、調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・ただいまの報告について御質問を受けたい。いかがか。
- 委員 ・小学校でもそうだが、音楽というのは音やリズムを楽しみながら学

習してほしいというふうに考えている。この2者は、生徒が興味・関心を高めるために学習できるように、どういう工夫がなされているか教えていただきたい。

- 調査員 ・調査員の中では、各教科書とも、子どもたちの知っている身近な曲がそれぞれ載っていたので、それを参考にリズムパターンなど工夫し取り組むことができるというような会話が合った。
- 委員 ・同じ教材でも出版社によって学習する学年が違っていたと思うが、指導に関しての困難さはあるか。
- 調査員 ・特にない。
- 委員長 ・ほかに何か御質問あるか。よろしいか。それでは、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・それでは、御感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。いかがだったか。
- 委員 ・教育出版の1年生を見ているのだが、最初の1曲の歌唱教材において、作曲者から新入学生へのメッセージというものが記載されている。また、作曲者の旋律による歌唱の仕方と楽しみ方ということも記載されている。もう1者の教育芸術社も、1年生のほうの冒頭の2曲の歌唱教材が、作者の歌詞に込めた作者のメッセージというものが示されている。これらのことで作詞者の願いだったり思いというものを感じながら合唱をすることができるんじゃないかと思う。
- 委員 ・見通しを持って学習を進めるということが生徒の学びを深めることとして大切な要素であると考え。2者とも冒頭に、歌唱、鑑賞、創作、それが関連づいて視覚化されている。教育芸術社は、さらにそこが思考力・判断力・表現力、知識・技能というふうに分かれて表示されているので、生徒に評価の観点を示す意味で分かりやすいというところと、先生たちにとってこれが縛りになってしまうのではないかと考える。それがはっきりしていればいいという考えもあり、柔軟に対応できるという考えもあるので、そこは両方かと感じた。
- 委員 ・感じた点というところで、教育出版は、全学年において音楽を形づくっている要素がまとめられている。特に、2・3年下のところに、自分が推す曲を形づくっている要素に着目してというプレゼンをするという発展的な学習課題が示されているのが非常に特徴的だなと感じた。一方の教育芸術社は、全学年の全題材名のところに、音楽を形づくっている要素、リズム、速度、旋律、構成とかそういう要素が明示してある。そういう学習目標が記載されているというところが特徴的かと感じた。
- 委員 ・ほかの教科との関連とか教育課程全体のカリキュラム・マネジメントのようなことから考えると、教育芸術社も教育出版もともに、国語や社会に関連すると思ったのだが、平家物語の能の話が載っていて、そういうところをうまく使って教科横断的な学習ができたりするといいのではないかと思

った。

- 委員 ・ 2者とも主体的・協働的な学習が図られるように、共通事項とも関連させた工夫がなされていると感じている。教育出版では、言葉の反復、それから重なりを生かしたリズム表現や言葉の特徴を捉えてCMソングを作るということで、親しみやすく協働的な学習に取り組める。子どもたちが非常に興味を持つというか、工夫がなされていると感じた。また、教育芸術社では、聞きなじみのある俳句をリズムでということで、「古池や」というのがあるが、そちらをリズム、音、拍で捉える、そこから旋律を作っていくというイメージしやすいものになっていると感じた。
- 委員長 ・ほかにはよろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに良さや特徴があることを報告させていただく。これで音楽（一般）の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・音楽（器楽合奏）については、2者から出されている。報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・ただいまの報告について、御質問はあるか。
- 委員 ・掲載されている楽器の順番だが、和楽器とか洋楽器とか、あと、笛なんかは吹く楽器、太鼓はたたく楽器、ギターは弾く楽器。いろいろあると思うが、使用しやすい順番とか、どちらもちよっと違う。この違いでやりやすいというのはあるか。
- 調査員 ・個人的には、まず、共通教材である楽器、箏を2年間取り組ませて、それに応じ、3年生になれば、それにちよっと発展させた西洋のギターを取り組ませたり、例えば、太鼓などを取り組またりするようにしている。
- 委員 ・じゃあ、特に順番が違うということはないか。
- 調査員 ・ない。
- 委員 ・授業ではどのような和楽器を指導しているか。また、外部講師との連携などをどのように図っているか、教えいただきたい。
- 調査員 ・伊勢原の職員との話の中では、伊勢原市では箏を基本的に取り組んでいる。先ほど申したように、学校によって打楽器であったり、私のところではギターを取り組ませているのだが、外部指導については、各学校の楽器の事情等で、専門的な知識を身につけさせたい場合にはお呼びされている学校もあるように聞いている。
- 委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。では、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。いかがか。
- 委員 ・取り扱う楽器について、2者ともに様々な種類の楽器が記載されて

いた。教育芸術社では、打楽器のシェーカーやコンガ、スネアドラムなど15種の奏法について掲載されている。教育出版では、複数の楽器を使って演奏する楽譜が多く掲載されていると思った。

○委員 ・多くの生徒にとっては、知識・技能を習得するため、いろいろな楽器を習得するためには、リコーダーや和楽器、和太鼓等の演奏における構えや姿勢について、教科書を見ると、手元や口元を拡大した写真が載っていて、わかるようになっている。そして、基本的な演奏方法から順を追って学習を進めることができるように教育出版では工夫がなされていてよかったかと思う。教育芸術社は、ギターや箏、先ほど出ていたが、姿勢や構え方という項目で、体の向きや力の加減、そして手の使い方など、複数の方向から写真を写している。そういう写真が掲載されて分かりやすい工夫がされていると思った。

○委員 ・先ほども話題になった伝統や文化に関する指導の充実ということで、和楽器、両者とも、篠笛と尺八、それから箏、三味線、和太鼓、5種類だったかと思うが、その中から選択できるように工夫されていると思った。教育出版は、そこに掲載されている曲が「さくらさくら」とか「荒城の月」とか「勸進帳」のような歌唱や鑑賞の内容と関連されている教材と思って見た。教育芸術社は、そういう楽器の導入において、割と伝統的な楽器に合った曲というのが教材として紹介されていると思った。

○委員 ・教育出版では、吹く楽器、弾く楽器の音の出し方や構え方、それぞれの楽器の共通点であるとか相違点、それらについて考え、その気づきを紹介し合うという「表現の仕方を調べてみよう」という学習が設定されていた。教育芸術社では、音楽を形づくっている要素、これを手がかりにして、表現の仕方の工夫について考えて対話をする「学びのコンパス」というものが設定されていて、それぞれに、対話的な学習というところにも視点を向けているというふうに感じた。

○委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあることを報告させていただく。これで音楽（器楽合奏）の検討を終了する。

(調査員入室)

○委員長 ・美術については、3者から発行をされている。では、調査員は報告をお願いします。

○調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）

○委員長 ・それでは、ただいまの報告について、御質問をお受けしたいと思う。いかがか。

○委員 ・美術は制作を通して学習することが多いかと思うが、教科書は授業の中で具体的にどのように使われているか、教えていただきたい。

○調査員 ・学習指導要領にのっとって授業を展開していく。恐らくになるが、

教科書に載った全ての項目を扱うことはできないというか、すごくいろいろな種類のもが掲載されているので、全て扱っていくととても時間が足りなくなってしまう。学習指導要領に基づいてピックアップして題材を扱っていくことになる。関連する題材を扱うときに、その教科書の該当のページを参照していくというような形を私は個人的には取っているが、恐らくほかの先生方もそのようにされているかと思う。

- 委員 ・教科の目標の中に、生活や社会の中の美術、また、美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するというのがあると思うが、子どもたちが日常生活の中で美術と豊かに関わる姿、これはどのようなものなのか。また、そういった資質・能力を育成する工夫というものが教科書の中に見られたかどうか教えていただきたい。
- 調査員 ・ほかの文化との関連ということでいうと、どの教科書も多種多様なものをピックアップしているので、関連づけは十分なされているかなというふうに思う。
- 委員 ・それぞれの教科書にそれぞれの子どもたちの資質・能力やいろいろなものに触れるという、そういうものがたくさん入っているという捉えでよろしいか。
- 調査員 ・そのとおりだと思う。
- 委員長 ・ほかに御質問はいかがか。よろしいか。それでは、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・それでは、引き続き、御感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。いかがか。
- 委員 ・各者とも多くの作品を掲載しており、生徒が学習を進める上で参考になるのではないかと思った。開隆堂出版は、美術1の表紙ではタイルを、美術2・3の表紙では筆のタッチを表現したデザインとなっていたのには驚いた。また、光村図書は、美術2・3の「日本絵画を楽しむ五つのキーワード」で、紙質を変えることで日本絵画の雰囲気表現しているように感じた。五感に訴える工夫は美術の教科書ならではだと思った。
- 委員 ・感想になるが、3者ともに、生徒が学習の目標や身につける資質・能力を意識しながら学習に取り組むことができるように工夫されていたと感じる。どの発行者においても、知識・技能、それから思考・判断・表現、主体的に学びに向かう態度について、マークと文章で示されている。それぞれの特徴として、開隆堂出版は、知識・技能や発想や構想、鑑賞という表示が活動ごとになされていて、生徒が意識して取り組むことができるように工夫されていると感じた。光村図書については、「POINT」という枠があり、そこで考えを深めることができるような問いかけがなされていた。日本文教出版については、「造形的な視点」で、そういう枠があり、生徒が考えを深めることができる問いかけが示されている。また、「表現のヒント」という枠もあって、発想の手立て等が示されていて、生徒が学習する上でも参考になる

のだろうなと感じた。

- 委員 ・開隆堂出版と日本文教出版は巻末で、光村図書は別冊と、その中に発想や構想のヒントがあり、技法が資料としてまとめられていて、生徒が主体的に学習を進める上で参照できて、とても役に立つのではないかと思った。中でも光村図書の資料は結構充実しているということと、発想を広げるための、こういうマッピングとか、多面的に見るためのレーダーチャート等が掲載されていて、最初に何か発想したりというときの実際の学習活動に生かせると思った。
- 委員 ・各者ともに、掲載されている生徒の作品には、作者の言葉として作者の思いや意図が簡潔に示されている。授業を受けている生徒からしてみると、自分と同年代の作者の考えに触れるということは、やはり興味・関心を高めたり、思考を深めたり、また、参考になったりする意見だな、とても効果的だと感じる。光村図書では、「みんなの工夫」というコーナーが設けられていて、生徒が制作過程を紹介していて、見本になっている生徒自身の発想や構想や表現方法の工夫、試行錯誤を、授業を受けている生徒が感じるということは非常にすばらしいと感じた。
- 委員 ・先ほどの質問のところで社会の関わりという話が出ましたが、開隆堂出版では、美術の2・3の巻末、そして、日本文教出版では美術の2・3下でそれぞれ、社会の中で表現や発信をしている人を捉えて、そういうトピックとして扱っている。生徒が学んだことを、社会とのつながりを感じられることはもちろんなのだが、そういうことがあることで生徒が自身の生き方を考える機会になるのではないかと感じた。
- 委員長 ・ほかにかがが。よろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあつたことを報告させていただく。これで美術の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・保健体育については、4者から発行をされている。では、調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告(中学校用教科用図書調査研究の結果(令和7・8・9・10年度用)平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり)
- 委員長 ・それでは、ただいまの報告について質問をお受けしたいと思う。いかがか。
- 委員 ・保健体育においても、言語活動の充実、これは非常に大事なことだと思うが、各者、この保健体育の教科書の中に、言語活動の充実についてどのように扱われているか。
- 調査員 ・各者ともに、まず、1時間の流れというものが設定されている。各者それぞれではあるが、その中で、課題の発見から言語活動を行うような設定がされていると私は認識している。
- 委員 ・保健体育の教科書はそれぞれ体育編と保健編があるが、教科書によ

っては、体育が先にあって保健が後等様々だが、先生の御経験上で構わないのだが、使いやすさに違いはあるか。

○調査員 ・私の経験上ということで、あくまでも私見にはなってしまうが、順番の差異というところでのやりにくさだったりとか困った経験は、特に私はあまり意識はないと思う。

○委員長 ・ほかに御質問はいかがか。よろしいか。それでは、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

○委員長 ・それでは、御感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。いかがか。

○委員 ・各者とも重要な語句やキーワードが太字で表記されていると思うが、中でも東京書籍と大修館書店については、重要な語句には、簡単な漢字であっても振り仮名が振られていると思った。学習活動を行うに当たって生じる困難さという視点から考えると、漢字の読みが得意ではない生徒や、例えば、外国につながるのある生徒にとっても分かりやすく表記されているのかと感じた。

○委員 ・先ほど言語活動の充実についてということで質問があったが、各者とも、自分自身の健康・安全について考えて、それを他者に表現できるような学習活動の流れになるよう工夫されていると感じた。中でもG a k k e nに関しては、課題を発見する「ウォームアップ」、そして、課題の解決に向けて思考して判断する「エクササイズ」、それらの学びを表現するという「学びを生かす」という流れがあり、左上から右下のほうに視線を、目線を移しやすい見開き1ページの構成になっている。生徒がぱっと見たときに、道筋を立てて主体的・対話的で深い学びにつながるような工夫がされていると感じた。

○委員 ・大日本図書の心肺蘇生法の手順については、見開き3ページで大きく掲載されていて、写真をコマ送りのように左から順番に掲載することで、傷病者の発見から医療機関へまでの具体的な流れをイメージしやすい工夫がなされていると感じた。加えて、出血や外傷の応急手当の次に熱中症の応急手当について掲載されていることは、対応の仕方をまとまりで考えられるよい点だと思った。

○委員 ・今、性の多様性ということが社会的にもいろいろ話題になっている中で、人権教育と結びつく大事なことか考える。どのように記載されているかというのを見たときに、大修館書店は性の多様性について見開きのページで取り上げていて、自分を含めた様々な性について理解を深める機会になると感じた。東京書籍とG a k k e nはそれぞれ、性に対応する表現する言葉として、S O G IとかまたはS O G I Eという形で、それについての解説があったり、G a k k e nは「L G B T」という言葉についても解説があったりし、そういったことへの理解が深まるとよいと思った。

○委員 ・まず、4者ともに、生徒にとって理解が深まるような構成上の工夫、

配慮がされていると感じた。保健の基礎的な内容について、小、中、高を通じて系統性のある視点で各者それぞれの方向で示していると感じる。また、ストレスへの対処について、各者それぞれリラクゼーションの方法を掲載しており、つらい出来事とか不安や悩みとか、心身の負担を自ら軽減するであったり調整したりということができるよう構成されていると感じた。

- 委員 ・思春期の性について、各者とも非常に体の変化等について工夫して書かれていると思った。G a k k e nは特に、「性とどう向き合うか」という表題で、生徒が自分事としてどのように考えるか、ということを考えることができるように工夫がなされていると思った。また、大日本図書、大修館書店、東京書籍では、性に関心を持ち始める思春期の性に関する情報の入手経路や性に関する興味について、グラフ等の具体的な資料を掲載することによって、身近に潜む性に関する危険性など、危険な場面や対処方法などを具体的にイメージしやすくなっていると感じた。
- 委員長 ・ほかにいかがか。よろしいか。御検討いただいたとおり、それぞれに特徴や良さがあるということで報告をさせていただく。これで保健体育の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・技術分野については、3者から発行をされている。では、調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告(中学校用教科用図書調査研究の結果(令和7・8・9・10年度用)平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり)
- 委員長 ・それでは、ただいまの報告について、質問をお受けする。質問のほうはいかがか。
- 委員 ・今、説明いただいたが、どの教科書も、大きな学習内容のまとまりとしては、まずは具体的な技術について触れて、その後に技術を生かして問題を解決する、そして、最後に社会の発展や未来について考えるという構成になっている。実際の技術の授業の中で具体的にどのように展開されているのかを教えてください。また、教科書というのは授業でどのように使っているかをお聞きしたい。
- 調査員 ・まず、教科書をどのように授業の中で使っているかという点についてだが、個人の見解になってしまうが、技術の中で、まず知識を身につけさせるために使用している。その中でも、材料と加工においては、実際には見せられない加工法などを資料活用して提示することで、思考力・判断力・表現力を養うために使用していることが多い。もう一点の展開方法については、問題解決方法を生徒に提示し、その中で考えが深まるような授業展開をしている。
- 委員 ・種目としては、技術・家庭科という中で技術分野と家庭分野があるのだと思うが、技術分野と家庭科分野で例えば発行者が違う教科書が採用されたとしたら、これは指導や評価を行う上で何か不都合が生じたりするか。

○調査員 ・家庭科と発行者が違うことだという点については、私個人の見解になつてしまふが、技術分野と家庭分野で発行者が異なつてしまつても、大きく不都合はないというふうに考へている。しかし、同じ発行者の場合、リンクしている部分があることもある。

○委員長 ・ほかに御質問はいかがか。よろしいか。それでは、ここで調査員は退室をお願いする。

(調査員退室)

○委員長 ・それでは、御感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。いかがか。

○委員 ・教育図書のみ、「スキルアシスト」という別冊があるが、これの中を見ると基礎技能がまとめられているので、生徒が興味・関心とか学習の必要に応じて見ることが出来る点はいいなと感じる。また、別冊ではないが、東京書籍は「TECH Lab」というページがあり、中を見ると基礎技能がまとめて掲載されているコーナーがあるので、こういうコーナーが設けられているのもいいなと感じる。

○委員 ・各者とも、巻頭のガイダンスのところでは技術学習への意識づけにそれぞれ工夫が見られていると思う。東京書籍では、「技術分野の学習方法」というところがあるが、調べ学習はもちろん、製品の分解であるとかフィールドワーク、それからインタビュー、思考ツールの活用等、多様な学習方法が示されているので、自分に合った選択ができると感じた。また、教育図書では、「技術の問題解決ってなに？」というページで、それぞれの立場、それから見方・考え方によって問題の捉え方であるとか解決の策が違うということを分かりやすく示していると感じる。開隆堂出版については、「問題解決の流れ」「問題学習の手順」というページで、トレードオフの考え方に触れながら、課題解決の達成についてそれぞれ示している。いずれも学習の中で活用できる内容が示されていると思った。

○委員 ・技術分野では問題解決の過程を通して学習していくことが重要だと考へる。各者ともに、各編の2章に当たる部分では問題解決例や実習例を多数掲載して、生徒が問題解決に取り組む際により参考になるのではないかと思った。特に東京書籍では、問題解決例が随所に掲載され、生徒が問題解決の過程をはっきりと意識できるような工夫がされていると感じた。また、教育図書では、巻末にAからD編それぞれにワークシートが用意されており、生徒が問題解決に計画的に取り組めるような工夫がされていると感じた。

○委員 ・同じく問題解決という視点から考へたときに、東京書籍と開隆堂出版においては、巻末で統合的な問題解決例や実習例がそれぞれ掲載されている。これまでの学習内容をそこで確認する。それでこれまでの学習内容が生きるとともに、学習内容と社会とのつながり、今後の社会の発展について考へる、そういう機会が用意されているので、生徒が主体的に学習に取り組めるのではないかと考へる。

○委員 ・技術分野では、制作とか育成を通して学習したことを振り返ること

で定着させたり、次の学習の意欲としたりすることが大切だと思うが、そういう観点から見たときに、東京書籍は、これは調査員の方からもあったが、各編の最終章のところに「未来のTechnology」というページが設けられている。生徒が学習したことを自分の言葉でまとめることができるようになっている。それから、同じように教育図書でも工夫がされていて、各編の最終章のところに「やってみよう」というものがあり、技術のプラス面、それからマイナス面、そういう両面を考えたり、生徒の考えを書いたりするページが設けられていた。また、3者ともに、各編で学習したことが生活や社会の中でどのように生かされているかというところで、技術に関わる人へのインタビューを通して紹介されているところに、工夫を感じた。

- 委員 ・今の情報化社会の中で、情報セキュリティーとか情報モラルのようなことを学習することは生徒たちにとっても大切だと思う。技術分野は、情報ということで内容として直接的にそういったことを学習できる貴重な教科だと思っている。その中でも、各者とも、大体4章のところで情報セキュリティーとか情報モラルということに触れているが、開隆堂出版は、巻頭のページのところの4ページぐらい割いて触れられているのが印象的だなというふうに思った。
- 委員長 ・ほかにはいかがか。よろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあったということで報告をさせていただく。これで技術分野の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・家庭分野については、3者から発行をされている。調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・それでは、ただいま御報告いただいた内容に御質問いただきたい。いかがか。
- 委員 ・家庭科というのは生活にかなり直結するような教科だと思うのだが、生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫とか配慮というのはなされているか。
- 調査員 ・どの教科書も非常に生徒に分かりやすい工夫がなされていると思っている。
- 委員 ・家庭科の授業の中では、調理実習、制作などいろいろな実践があると思うが、そのときにICTの活用も含めて、教科書はどのように使っているか。
- 調査員 ・基本的には、その年その年で生徒の様子というのもまた違うので、生徒の様子に合わせ、教科書は知識の部分は基本的には活用するが、それ以外のところは、生徒、そのときそのときに合わせて臨機応変に教えていく形がベースになっているかと思う。

○委員長 ・ほかに御質問はいかがか。よろしいか。それでは、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

○委員長 ・それでは、感想や御意見をいただきながら検討を進めてまいりたい。いかがか。

○委員 ・各者とも、どれも多様な写真や図で構成されているので、それぞれ工夫が感じられると思う。1つ目で言うと、東京書籍については、調理実習の例が多く掲載されていて、生徒のやってみたいという思いが引き出されるよう、分かりやすい手順で掲載されているんじゃないかと思う。布を使った制作とかでもアレンジをされた例がいろいろ紹介されているので、より興味・関心を引く内容になっているかと思う。教育図書については、工夫する力が身につくような豊富な実習題材というものが準備されていて、例えば、調理実習でアレンジの献立が示されたりだとか、衣服の実習で目的に合わせた制作というものができそうなコーナーが設けられている。最後、開隆堂出版は、調理実習や選択実習において、科学的な根拠による記述で、何でそのようになっているのかが納得だったり理解できたりするように、教科書の下の方に「調理方法のQ&A」というものがあって、そこで取り上げたりだとか、洗剤の働きについて原理を理解した上での実習が進められるようになっているというふうに感じている。

○委員 ・各者それぞれカリキュラムマネジメントに関する工夫があるというところで、クリップのマークだったり本のマークだったりで他教科との関連、それから小学校、高校との学習の関連をマークで分かりやすく示していると思った。また、3者ともに、これも技術分野との調整とか各学校、地域の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントがしやすいようにだと思っただけ、学習指導要領に示された内容、Aであれば家族・家庭生活、B衣食住、C消費生活・環境というようなこのA、B、Cの順番で配列されているのが特徴的だなと感じた。

○委員 ・先ほどの発言にもあったように、家庭科では、実習であるとか制作であるとかという形で実践的・体験的な活動を通して知識や技術を身につける、そして、またそれらを生かした思考力・判断力・表現力、そういうところを育てていくことが大切なのかなというふうに考える。東京書籍では、「考えてみよう」「話し合ってみよう」というところ、それから、教育図書では「見つめてみよう」、開隆堂出版では「発表してみよう」「話し合ってみよう」というページがあり、それぞれ振り返りであるとか話し合いを通じて自分自身の生活を見直すことができる活動が設定されていると感じた。

○委員 ・先ほどカリキュラム・マネジメントという話が出たが、その関連で、主体的で対話的な深い学びということに対応して、東京書籍では、主体的に課題を解決していく力が身につくように、各編の冒頭で学習課題を明確に示して、生活の営みに係る見方・考え方を分かりやすく提示することで、自らの問題解決に、問題発見につながるように工夫されていると思った。開隆堂

出版については、内容の節ごとに学習の目標というのが示されているので、問題解決型の学習を通して創意工夫する力を養うことができるような課題が配置されていると思った。学習を進める上での手がかりとなる例示や写真、図、イラストなども過不足なく配置されてよいと思った。教育図書では、各編の始まりに自立度チェックというものが設けられており、生徒が自分自身を振り返るいいチェック項目になっていると思ひ、そういうもので問題意識を持って学習に取り組むことができるように工夫されていると感じた。

○委員 ・調理や制作の場合には、ICTの活用というのはすごく有効な手段かと思う。実際に見て分かりやすいというのでは、どの発行者もすごくいろいろ工夫しているというのと、そういうものがすごく多くなったと感じた。東京書籍は、学習に関連する動画やシミュレーションなどの資料が用意されている部分にはDマークがついていたり、教育図書は、知識、技能が確実に身につけられるように、コンテンツや関連するホームページを参照できる二次元コードが掲載されている。それから、開隆堂出版も、学習場面に効果的に活用できるような動画、あと、学習カードのようなものも用意されていて、該当する箇所には二次元コードが掲載されていたので、これから、もっともっと活用が進んでいくのかなと思った。

○委員 ・日本の伝統や文化に関する教育の充実として、東京書籍は、住生活の文化を知って継承することを重視し、日本の住まいや伝統的な住まい方などを取り上げていると思った。教育図書は、だしを使った料理、浴衣の着つけ、日本の伝統的な住まいなどの写真やイラストを用いて分かりやすく示されていると思った。開隆堂出版は、伝統的な幼児の遊びや和食、郷土料理、伝統的な民家や建築技術、和服など、数多く取り上げているなど感じた。

○委員 ・家庭分野の目標に、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだすとか、家庭や地域の人々と協働しよりよい生活を実現するとある。例えば、東京書籍では、幼児や高齢者など世代の異なる人、障害のある人やない人、様々な国籍の人、異なる文化や言語を持つ人なんか教科書に登場し、生徒が周囲の人々と共生する大切さを自覚できるように構成されている。同様に教育図書においても、性別や人種、年齢や障害の有無などに関わらず協力、行動していくことができるよう、イラストや写真なども配慮していると感じる。開隆堂出版では、自然との共生や人権と平等性の尊重を軸としながら、生徒が持続可能な社会を構築するための課題について理解をし、主体的に行動できるよう学習内容の全てが関連づけられていると感じた。

○委員 ・ものすごいボリュームの資料を見て、私たちが学んだ時代とはまた違うのだと。率直な感想だが、これらの多くが、本来は家庭で教えらるべき事柄が、教科書に載っているということが時代を反映しているなど思う。ただ、教科書としては、情報量というのは多ければ多いほど幅が広がるので、これでいいと思うが、実際に現場で教える先生方としては、これをどのように教えられているのか、どのぐらいのレベルで教えられているかというのが保護者目線では心配というか、先生が大変ではないのか。先生によっては、

選択のしがいがあるので、幅が広いほうが選びやすいと思うが、逆にきちょうめんな先生からすると、全部やらなければいけないとってしまうのではというのが気になるころではある。教科書としてはすばらしいのだが。

- 委員 ・ほかの教科書も全てだが、感心をずっとしているというか、今の時代すごいなと単純に思っている。あと、実生活のところだと、教育図書の後ろのほうの消費生活のところ、いわゆる契約行為のような、法的な部分に触れられていたりしている。昨今だとスマホでピッとやってすごく多額の何かを買ってしまうとか、いろいろなこともあつたりすると思う。クレジットカードとか金融面の話とかも出てきたりと、本当に今の子どもたち、たくさん覚えなければいけないこともあるとは思いますが、時代を反映した内容なのかなと感じている。
- 委員長 ・ほかにはよろしいか。御検討いただいたとおりで、各者それぞれに特徴や良さがあることを報告させていただく。これで家庭分野の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・英語については、6者から発行をされている。調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（中学校用教科用図書調査研究の結果（令和7・8・9・10年度用）平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり）
- 委員長 ・それでは、ただいまの報告に対しまして御質問を受けたいと思う。いかがか。
- 委員 ・英語は、具体的な言語活動を通して資質・能力を育むことが大切と思うが、言語活動の設定において生徒の興味・関心を高める工夫というのが何か見られたか教えていただきたい。
- 調査員 ・どの教科書においても、1年生はなるべく自分の身近な話題からスタートして、2年生で自分の文化を英語で伝える、3年生になると人権問題だったり平和についてを英語で学ぶという発達段階に応じた学習内容になっているので、そこはどの教科書でも配慮されているかと思う。
- 委員 ・今、御報告の中で小学校とのつながりに触れていただき、6者そんなに差はないだろうということだったが、現行の教科書が小学校と中学校で伊勢原市は発行者が違うと思う。小学校と中学校で発行者が違うところで何か生徒の学習に影響があるか。
- 調査員 ・実際に子どもたちの様子を見ても、どの教科書を見ても、1年生の最初の部分では、小学校ではこんなことをやったよねという、具体的な活動内容というよりは、こんな文法をやつて、こんなことを言えるようになったよね、こんな単語やったよねというような、大まかなではないが、細かくはないけれども、やったことを復習できるような内容になっているので、小学校と中学校が違う発行者であっても、子どもたちにとってはすごく大きな壁にはなっていないかなと思う。

○委員長 ・ほかに御質問はあるか。よろしいか。では、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

○委員長 ・それでは、御意見や御感想などを伺いながら協議を始めたいと思う。まず最初に、今の御質問にもあったが、小学校とのつながりなどで感じたことはあるか。

○委員 ・調査員の御説明にもあったが、各者ともうまく連携というか、接続しているなというのが感じられた。各者とも、1年生の教科書の巻頭部分で、まずは聞くことや話すことを中心に扱っていたり、小学校で学習した単語やアルファベットを復習するなど、小学校と円滑な接続を意識したりするなどの工夫がなされているなど感じた。特に三省堂だが、「S t a r t e r」というところもトピックを作っていて、約20ページにわたっている。見ると、小学校で使っているものと変わらないなということで、子どもたちは安心して学習できるのかなと思った。こういう、実際に文字を書いたりするスペースが多いので、とても丁寧に作られている教科書だという感じを受けた。

○委員 ・中学校での学習内容に入っても、各者、小学校の学びを意識して、スムーズに中学校の学びに入れるのではと思った。東京書籍、開隆堂出版、新興出版社啓林館、教育出版は小学校で習った単語が各ページ紹介されている。さらに、東京書籍では、「小E n j o y c o m m u n i c a t i o n」というコーナーで、小学校で学習してきたコミュニケーションを想起するような活動が示されており、よい工夫だと感じた。

○委員長 ・ただいまの御意見で、各者とも小学校との接続については円滑に図られている、そういった工夫がなされているということだが、生徒が主体的に学習に取り組んだり外国語によるコミュニケーションを積極的に行ったりする、そういった工夫についてはいかがか。

○委員 ・小学校では、聞くことや話すことというのを中心に学習を進めている。その成果ではないが、子どもたちが英語によるコミュニケーションへの抵抗が少なくなっているのではないかと聞いています。そういうベースを生かしながら、中学校では、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけていく必要があるのではないかと感じる。教科書は、東京書籍と光村図書が、即興的なやり取りができるような活動が巻末に帯活動として設定されていた。光村図書では、自分の言葉で既習内容を伝えるリテリング活動が設定されている。三省堂については、場面を意識した会話表現が掲載されているので、ロールプレイを通したり、いろいろなところでそれぞれコミュニケーション学習において使いやすいのではないかと感じた。

○委員 ・教科書を開いて学習するときに、全体の配列や文字の見やすさ、それとともに、机に開いたときの使いやすさというものを重視する必要もあると感じている。今見させていただいて、4者がA判のもので、光村図書と教育出版の2者がB判になっていると思う。前回の採択のときには、A判は1者だけだったというふうに伺ってる。ということは、大分紙面の大型化とい

うのか、主流になっているのかと思われる。子どもたちが今、机に教科書を開いて、ノートを開いて、タブレットもあってという状況で、できるだけコンパクトになるようにとこのところ、教科書にもいろいろと書き込めるような状況をつくっているのかなと感じた。特に、東京書籍と三省堂に関しては、1年生の第4課までは、ノートを開かなくても教科書に書き込めるような工夫がなされていて、簡単な文章などがそこに書き込んで学習ができる。そのような点がいいのかなと感じている。

- 委員 ・先ほど議長からは、主体的に学習に取り組むという視点だったが、もう少し深い学習という意味で、主体的に学ぶ意欲を高めるという、そういう工夫も大事かと思う。各者、巻頭で教科書の構成や学習の流れの説明をしているので、生徒が見通しを持って学ぶことができるようになってきていると感じている。特に光村図書は、「英語の学び方ガイド」というコーナーが設けられていて、自学自習に役立つ、意欲的に取り組むという内容になっているかと思っている。また、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の領域がアイコンで示されていて、生徒が今何を学習しているか、それを意識することで意欲も高まるかを感じている。さらに、6者全てに教科書に二次元コードがついており、今回の改訂では、音声や本文のアニメーションに加え、各者それぞれ文法の解説動画を掲載している。その中でも東京書籍、光村図書、新興出版社啓林館のものは、ネイティブスピーカーやアニメーションを採用して分かりやすくまとめられている。また、三省堂は、日本人教師による文法の解説が丁寧に行われている。生徒の予習・復習にも役立つと思われるので、そういうところでも主体的に、意欲的に育む工夫がされていると感じた。
- 委員 ・どの発行者も、例えば、世界の人々の日常生活や伝統文化、または現代的な課題等いろいろな題材が扱われていて、生徒自身の興味・関心や発達段階に応じた工夫があるかと思っている。その中でも自分の目に留まった部分では、開隆堂出版は、どれも中学生が興味・関心を抱くような内容が取り上げられているなと思った。1年生の「世界の通学時間」という題材で、すごく長い距離を朝走って、2時間かけて通っているということが題材で扱われていて、3年生のところでは、「チョコレートの物語」というので、本当に面白いな、読み応えがあるなと思った。そういう題材を取り扱うことでも、進んで学習に取り組む姿勢につながるのではないかと思う。
- 委員長 ・ほかに御意見、御感想などいかがか。よろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあったということで報告をさせていただく。これで英語の検討を終了する。

(調査員入室)

- 委員長 ・道徳については、7者から発行されている。それでは、調査員は報告をお願いします。
- 調査員 ・報告(中学校用教科用図書調査研究の結果(令和7・8・9・10年度用)平塚・秦野・伊勢原・大磯・二宮地区版のとおり)

- 委員長 ・ただいまの報告について、御質問を受けたいと思う。いかがか。
- 委員 ・小学校の道徳の教科書に比べると、読み物教材が、すごく文字が小さい。1行当たりの文字数がすごく多いなという印象を受けた。6ページにわたっているような構成があったりする。1時間の授業の中で思考を深めたり議論を交わしたり、そういうことが必要だと思うが、文章量が多いと感じる。それぞれの教科書の文章量が先生から見て適切か、どのような感じなのかなということ伺いたい。また、中学校では実際にこの教科書を使われてどういうふうに展開されているのか教えていただきたい。
- 調査員 ・これは完全に私の主観での話となってしまうことをあらかじめ御理解いただきたいのだが、私も実際、中学校でこういった教科書を使って道徳の授業を行っている。教材の分量としては、私は今回、小学校の教科書に調査をする上で一切触れていないので、あまり比較ができないのだが、考えを深めるという上では、文章量としては私は適切だと感じている。それから、ふだんの授業の中でということだが、ワークシートがこういった教科書の中に別で付属されていたりするので、そのワークシートを使って発問をする、あるいは、職員の中でもっと話して、こういった発問がよりいいのではないかと、子どもたちのそういった考えを深め合う発問としてよりいいのではないかと、という場合には、ワークシートを別でまた準備をして授業をするという場合もある。
- 委員 ・7者から発行されているが、4者がB5判。3者がA4判で一回り大きい。生徒が学習する上で、また先生が実際授業を行う上で、大きさの違いによって何か不都合な点や、逆にいい点はあるか。
- 調査員 ・若干大きさが違っているが、各者とも、今回調査をした上では、ユニバーサルデザインという言葉がどの教科書も特徴としてある。ユニバーサルデザインは、先生方御存じのとおり、視覚的に読みやすいもの、いろいろな困難を抱えた子どもたちにとっても理解しやすいということなので、大きくなっているということは、当然、文字のポイントも若干大きくなっており、そういう上では、子どもたちの学習する上での支援としていいのではないかと思う。ほかの教科のことで申し訳ないが、ほかの教科書も、実際大きくなっている教科もあったので、そういった流れはあるのかなと感じている。特に授業をする上で、大きい小さいというのは特別不都合は感じたことはないというのが私の感想である。
- 委員 ・道徳は多分、よりよく生きるとか、よりよい在り方みたいな、そういう学びだと思うのだが、「よりよい」の「よい」の部分が曖昧なまま学ばわけど、「よりよい」の「よい」の部分というのは、恐らく死生観や宗教観に関わってくるところだと思う。その部分がある意味、例えば、仏教だったら仏教とか、神道だったら神道とか、キリスト教だったらキリスト教、そういう基となる死生観みたいなものの上に積み重なっていくものだと思うのだが、現場で教えられる先生がきつと大変なのではないかと思っている。実際にこの教科書を使って教えられるときは、苦悩というか、大変さというか、どの

ようなものなのか。

- 調査員 ・こちらも、先ほどユニバーサルデザインということと、あとは、人権であったりとか、そういったことに対する配慮というものも、各教科書ごとに配慮はされているなというふうに調査をして感じている。先ほど、まさに宗教的なこととかそういった観念、考えだが、そういったものも各教材ごとに配慮がしてある。もちろん、それは最終的に私たちも、例えば、言葉にして伝えるときに配慮した上で、いろいろな生徒がいるので、やらせていただいている。
- 委員長 ・ほかに御質問はよろしか。では、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

- 委員長 ・では、感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。いかがか。
- 委員 ・各者とも、巻頭で道徳ではどのようなことを学ぶのか、どのように学んでいくのかといったことを紹介するページが設けられていて、生徒が主体的に学ぶための参考になるように思う。東京書籍では「教科書の使い方」というページが設けられていて、学習のマーク、4つの視点のマークがついていて、考えを深めるヒントになっている。生徒が教科書を使いこなせるように工夫がされていると感じた。光村図書は、道徳では22の観点があるが、「22のキーワード」として、見出しとともに内容項目を一覧できるよう作られている。学習に対して生徒が意欲的に取り組めるような工夫がされていると感じた。日本教科書では「ウォーミングアップ」、日本文教出版では「ミニ教材」が用意されていて、学び方を学ぶ工夫がされていると感じた。
- 委員 ・道徳の時間では、多様な感じ方や考え方に触れたり、自己の考えを深めたりするような学習が行われる必要があるかと思う。そういった視点で見えていったときに、例えば、東京書籍の「つぶやき」や日本教科書の「memo」は、感じたことや考えたことを書き残し、友人と対話したり、後から振り返ったりするためのきっかけになるよい工夫だと感じた。また、東京書籍の「プラス」や教育出版の「やってみよう」、あかつき教育図書の「マイプラス」では、役割演技をしてみて感想や考えを伝える活動が設定されている。ほかにも、東京書籍の「プラス」で「p4c」といった対話についても取り上げたり、光村図書では、学級で問いを立て、その問いについて考える機会を設けられていたり、Gakkenでは、「深めよう」で話し合ったり振り返る機会をまとめて設けたりと、各者様々な工夫が見られたと思う。
- 委員 ・生徒が考えを深めたり振り返ったりするためには、考えたことや感じたことを書くことも大切と考える。今回の教科書の中で、先ほど調査員の方も言っていたが、日本文教出版に別冊がついている。書くスペースが十分に確保されているのではないかと思う。一方で、教材の中に考えや感じたことを書くスペースが設けられている教科書も複数あった。光村図書やGakkenでは、巻末に短い文で授業を記録するためのシートがあり、東京書籍と教育出版、光村図書、Gakken、あかつき教育図書では学期だったり

1年間を振り返るためのシートがそれぞれ掲載されている。ワークシートや道徳のノートを用意するなど、記録の仕方についてはそれぞれの学校で工夫されているのではないかと思うが、生徒や授業者にとってより使いやすいものが何かということを考える必要があると思う。

- 委員長 ・先ほども調査員の報告の中で、いじめを最重要課題として取り上げている教科書があるという御報告もあったが、いじめに限らず、命の尊さであったり、情報モラルであったりと、これら今日的な課題の取り上げ方についてはどのような考えをお持ちか。お聞かせいただきたい。
- 委員 ・どの発行者もいじめ問題については取り上げている。中でも東京書籍、教育芸術社、光村図書、日本文教出版、あかつき教育図書は複数の教材をユニットとして組み合わせ、考えられるような内容になっているので、連続した学習の中でさらに学びを深めるといえることができるようになっているのではないかと感じた。また、情報モラルに関しても、どの出版社も取り上げられている。その中で、光村図書、あかつき教育図書について、この2つは情報モラルに関してユニットとして取り上げている。
- 委員 ・人それぞれの道徳観があるので、何がいいとか悪いとかと言うつもりは別れないのだが、各教科書で実例や物語を通して考えさせるためのポイントは指摘がされているので、そういうものの積み重ねで子どもたちが学んでいくしかないと思う。実社会的に言ったら、例えば、親が道徳観念が強いからといって、子どもがそういうふうになってきているかといったら、そうでもなかったりする家庭は、実社会ではあり、逆もしかりなので。教育の面も大きいと思うが、どちらかというところ、子ども自身がどう気づきがあるかというところが一番大事なのではないかと思っている。そのきっかけとなるツールとしてはすごく、どの教科書もあまり差異はないかと思う。
- 委員 ・心の在り方がそのまま生き方に表れるので、自分の心とか、何を考えどうやって生きるというのは、教科書で学べるのは限界があると思う。資料としてはとてもいいと思うが。ここにおられる教育委員さんとか、住職をされておられて、私は牧師をやっているので、死生観、生きている間にどういふふう生きるのかという本質のところをふだんから考えている必要がある。宮司さんでもいいのだが、その道のプロの方の意見を聞きながら学びができたなら、多分、先生もきっと助かるというか、実践的な学びが教科書とともにできると、より立体的に学べるのではないのかなと。保護者としては、評価がつく科目ではないと思うが、最も大事な学びだと思うので、教科書はすごくよくできているなと思う。学びの教材としてはすばらしい教科書だと思っている。
- 委員長 ・ほかには御意見、御感想などよろしいか。御検討いただいたとおり、各者それぞれに良さや特徴があるということで報告をさせていただく。これで、道徳の検討を終了する。
- 委員長 ・以上で全ての種目について検討が終了した。長時間にわたる各教科

の検討、感謝する。では、事務局より願います。

○事務局 ・今回の検討結果、会議録については、まとめ次第、市のホームページに公表をさせていただきます。

・本日の会議録と併せて、教育委員に送る報告書を事務局でまとめさせていただきます。内容については事務局に任せていただきたい。

・情報公開の請求があった場合、検討委員会委員の氏名を公開する。時期は、8月の教育委員会議で7月の教育委員会の議事録が確定する8月下旬以降となる。御承知おきいただきたい。

・閉会の挨拶を副委員長より願います。

○副委員長 ・挨拶

○事務局 ・これで令和6年度代2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を閉会とする。

午後 4時45分 閉会